



Personal MBA

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

優れるということは、一つ一つの現実をその企業努力において、優れたものとして行うことである。

これら一つ一つの現実の考査し、より優れた現実を求めること、時代の与える先端性においてそれらが優れたものであるならば、それとともに現実を行うことなどにおいて、より優れた企業の実現を求めることができるのである。

無理と無駄を排除するとき、企業経営はシンプル化される。

新しい時代における就業環境は、その新しいライフスタイルとともに、企業の変化を与えるものである。それらは新しい変化の与える企業への変化であり、より優れた進歩性とともにした企業経営は新しい現実を提案できるのである。

企業は一つの社会である。経営者がそれを与えるのである。

より優れた企業への転換は新規目標と基準における現実の転換を求め、それらが企業に新しい未来を与えることは可能である。

これらは知的経営への転換が、企業を飛躍的に進歩させることができることを証明するものである。

これらは人材の要求が、企業の生命線であることを示すものである。

経営は、決して甘えを求めない。もっともな厳しさが、健全な企業風土なのである。

知的生産性への転換は、すべての産業における今日の現実である。これがトレンドを与え、現実を行うのである。

これらは既存手工業が完全に知的生産性へ転換する現実が今日のはるかに想像に勝る変化の真実なのである。